

青根の素晴らしさを全国へ

○：青根を舞台に、環境ぶを名称に盛り込んだ同都会から人々を招いた交
教育によるまちづくりを実会。本業である麻布大学の流事業を実施する。昨年は
実践する大学発の市民参加型環境科学学部の講師のかた100人以上を青根での農
団体「あざおね社中」。「あわら、同大学の学生を連れ業や環境活動に誘致。「地
おね」に麻布大学の「あざて毎週、地域住民と協力し域の自然を知るには、そこ

人物風土記

題字は
相模原市長



●「あざおね社中」の会長として、麻布大学の学生を連れて青根地区の発信に努める

村山 史世さん

都内在住 49歳

に暮らす人々の生業を学習
する必要があり。昔か
ら人の暮らしと環境には密
接な関係がありますから」
麻布大学には99年に就き
○：社中は2011年に
法律と環境の授業を担当す
発足。青根の休耕田を復活
。現在は都心から2時間
させ、稲作をしながら、生
かけて通勤し、土日は青
物多様性の調査・把握・保
根に向く熱血漢だ。「環
全活動に取組み始めた。活
境は麻布大学に来てからに
動を始めると、青根の環境
本格的に学び始めました。
の素晴らしさに加え、そこに
「師弟同行」をモットーに生
住む住民の温かさも実感。
徒と一緒に学ぶのが私のス
「青根地区をもっと多くの
タイルですな」と力強い。
人を知ってもらいたい」と、
○：秋からはゼミの生徒
PR活動も積極的に関わつ
てきた。特に14・15年には
せて学ばせたい意向。青根
2年連続で、地域の魅力を
の発展には交通整備、電動
PRする映像作品を募集し
た「全国わがまちコンテス
ト」で最優秀賞を獲得する
だエコーリズムの充実が
など、顕著な功績を残して
きた。「青根の良さを知つて
必要と考えている。「外部の
我々からの目線で提言でき
ることもあるはず。学
々な体験をして頂くのが一
生と共に青根の発展を考え
番です。その手助けが出来
ていたら」と話した。